

はじめにお読みください ⚠ 警告 (ご使用上の注意)

- 電池をセットする際には、ギター本体のエンドピン・ジャックへの接続がないことを確認してから裏面に記載された「電池交換の手順」にしたがっておこなってください。本体エンドピン・ジャックを接続したままバッテリーケースの抜き差しをおこなうとポップノイズが発生し、接続先の外部機器を破損させる恐れがあります。
- プリアンプのアップパー部(取り外されるパネル側)とロワー部(本体固定側)を接続するコネクタには絶対に手を触れないで下さい。汚損により通電しなくなり故障する場合があります。
- プリアンプのアップパー部とロワー部を接続するコネクタには、金属など導電性のある物を絶対に触れさせないで下さい。誤った通電などにより故障する場合があります。
- 電池を交換する際は必ず2個同時に行ってください。必ず2個とも新品に交換し、新しいものと古いものを混在させないようにしてください。また、マンガン電池とアルカリ電池など、種類の異なるものを混ぜて使用しないで下さい。極端に電池寿命が短くなります。
- 故障の原因になりますので2個の電池の+と-の電極を間違えないようにバッテリーケースにセットしてください。
- 電池交換の際、プリアンプのアップパー部を取り外した場合、ロワー部内側にゴミなどの異物や異常がないかを確認してからアップパー部を装着して下さい。異物や異常がある場合は直ちに使用をやめ、お買い求めの販売店に点検を依頼して下さい。

- プリアンプのアップパー部を再度ロワー部へ装着する際、取り付けがスムーズでない場合、無理に押し込まず、各部を点検し問題のない事を確認してから行って下さい。
- 電池をセットした後、アップパー部着脱用ツメに浮きやゆるみがなく、アップパー部が確実に本体に固定されているか確認してください。固定されていない場合、チューナーやプリアンプが作動せず、また、飛び出したバッテリーケースで大切なギターを傷つけてしまう可能性があります。
- 出力が大き過ぎる場合、プリアンプ側での歪みが発生していない状態でも、接続機器側で入力オーバーとなり歪みを生じる場合があります。接続する外部機器側に入力調整のできる機能がある場合は、プリアンプ側のVOLUMEコントロールと併せて、歪みのない設定を行ってください。また、入力レベルが固定された機器に対しては、これに合わせてCT4-DXプリアンプのVOLUMEコントロールを下げて歪みが生じないように設定して下さい。

⚠ 注意 (保管上の注意)

- ギター本体のエンドピン・ジャックへギターケーブルを接続したままにしておくと、プリアンプの電源が入ったままの状態となるため、電池が消耗していきます。エリ・アコとして使用しない場合、必ずエンドピン・ジャックからギターケーブルを抜いてください。
- アップパー部を破損又は紛失した場合、この部分のみのパーツ供給は用意されておりません。プリアンプ一式の有償交換となりますので、取扱いにはご注意ください。
- バッテリーの液漏れによるプリアンプの破損は、保証期間中でも無償対応外となります。バッテリーは信頼ある製品をお選び頂き、長期間お使いにならない場合はバッテリーを外しておく事をお勧めします。

電池交換の手順

1 プリアンプ・パネル上下のアップパー部着脱用ツメを指で内側に引き寄せると、この部分がはずれ、わずかに押し出されますので引き抜きます。

2 バッテリー・ボックスを引き抜き、電池を交換します。バッテリー・ボックスを引き抜く際ギター本体に落下しないよう、充分に注意して下さい。満幅の広さに電池の+、一極を合わせて装着します。この際、コネクタ(接点)部分を指で触れぬよう、また、この部分を金属など導電性のあるものを触れさせないようにご注意ください。また、ロワー部(プリアンプ内部)にゴミなど異物の混入、異常の無い事を確認して下さい。

3 バッテリーボックスの電極側を下向きにし、電池全面が見える側をギター裏甲に向け、ロワー部のレールに沿うようにセットします。

4 バッテリーボックスの挿入方向を間違えないよう充分にご注意下さい。適確な方向に挿入できていない場合、スムーズにセットできませんので、無理に押し込まず、一旦取り出し確認しましょう。

更に、取り外したアップパー部を元の方向に合わせ押し込んで取り付けます。この際、スムーズに押し込めない場合、無理に装着せず、各部を点検して問題のない事を確認してから行って下さい。また、アップパー部装着後、着脱ツメにゆるみがなく、確実に本体と固定されている事を確認して下さい。

△ご使用上の注意 参照

コントロール機能 & モード切り替え

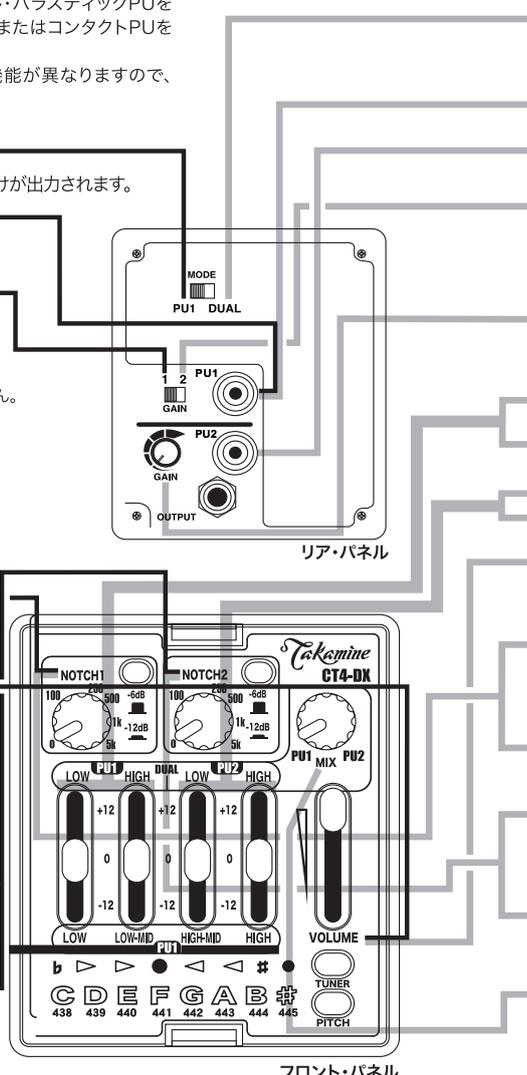
CT4-DXは、伝統と実績に裏付けられたタカミネ・オリジナル・バラスティックPUを最大限活かしたPU1モードに加え、任意のマグネチックPU、またはコンタクトPUを接続したDUALモードへの機能拡張が可能です。裏パネルのMODEスイッチにより、フロント・パネルの各種機能が異なりますので、それぞれのMODEでのコントロールにつきご説明します。

●PU1 MODE

- MODEスイッチが、PU1の場合、PU1に接続されたサウンドだけが出力されます。
- PU1 インプット端子
タカミネ・オリジナル・バラスティックPU専用インプット端子
PU1 MODEでは、この信号だけが出力されます。
- GAIN1/2 切り替えスイッチ (PU1専用)
タカミネ・バラスティックPUのスティール弦/ナイロン弦用の切り替えスイッチ。
通常は、メーカー・出荷時に設定済みの為、触らないで下さい。
1=スティール弦/2=ナイロン弦用となっています。
- PU2 インプット端子 使用しません。サウンドにも反映されません。
- GAIN(PU2専用) 使用しません。サウンドにも反映されません。
- LOW 低音域の増減をコントロールします。
- LOW-MID 中低音域の増減をコントロールします。
- HIGH-MID 中高音域の増減をコントロールします。
- HIGH 高音域の増減をコントロールします。
- VOLUME 全体音量を0~最大の範囲でコントロールします。
- NOTCH1 ノブを回して決定した周波数部分をカットします。ハウリングの軽減に使用します。通常、-6dBカットとなっています。左に回し切りの場合、設定が0Hzとなる為、サウンドには影響しません。
- NOTCH1 カットレンジ切り替え 押し込むと、NOTCH1で設定した周波数を更に深く-12dbカットします。
- NOTCH2 ノブを回して決定した周波数部分をカットします。ハウリングの軽減に使用します。通常、-6dBカットとなっています。左に回し切りの場合、設定が0Hzとなる為、サウンドには影響しません。
- NOTCH2 カットレンジ切り替え 押し込むと、NOTCH2で設定した周波数を更に深く-12dbカットします。
- MIX 使用しません。サウンドにも反映されません。

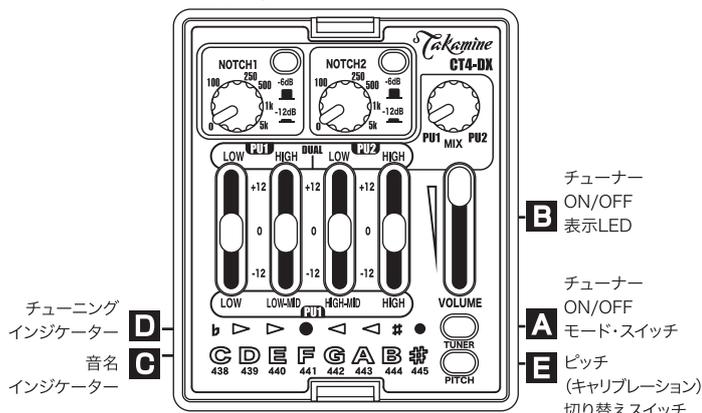
●DUAL MODE

- MODEスイッチが、DUALの場合、PU1とPU2に接続されたサウンドをミックスして出力します。
- PU1 インプット端子
タカミネ・オリジナル・バラスティックPU専用インプット端子
- PU2 インプット端子
任意のマグネチックPUまたはコンタクトPUを接続します。
- GAIN1/2 切り替えスイッチ (PU1専用)
タカミネ・バラスティックPUのスティール弦/ナイロン弦用の切り替えスイッチ。通常は、メーカー・出荷時に設定済みの為、触らないで下さい。
1=スティール弦/2=ナイロン弦用となっています。
- GAIN(PU2専用)
PU2に接続されたPUの入力ゲインを調整します。入力過大にならないよう歪みに注意して設定して下さい。
- LOW PU1専用(タカミネ・バラスティックPU)に、低音域の増減をコントロールします。
- HIGH PU1専用(タカミネ・バラスティックPU)に、高音域の増減をコントロールします。
- LOW PU2専用、低音域の増減をコントロールします。
- HIGH PU2専用、高音域の増減をコントロールします。
- VOLUME 2PUミックス後の全体の音量を0~最大の範囲でコントロールします。
- NOTCH1 PU1専用(タカミネ・バラスティックPU)に、ノブを回して決定した周波数部分をカットします。ハウリングの軽減に使用します。通常、-6dBカットとなっています。左に回し切りの場合、設定が0Hzとなる為サウンドには影響しません。
- NOTCH1 カットレンジ切り替え 押し込むと、NOTCH1で設定した周波数を更に深く-12dbカットします。
- NOTCH2 PU2専用、ノブを回して決定した周波数部分をカットします。ハウリングの軽減に使用します。通常、-6dBカットとなっています。左に回し切りの場合、設定が0Hzとなる為サウンドには影響しません。
- NOTCH2 カットレンジ切り替え 押し込むと、NOTCH2で設定した周波数を更に深く-12dbカットします。
- MIX 2つのPUのミックス比を決定します。左に回し切りでPU1(タカミネ・バラスティックPU)のみ、右に回し切りでPU2のみ、となります。



チューナー使用方法

チューナー・ファンクション



A チューナーON/OFFモード・スイッチ

チューナーのON/OFFスイッチとして機能します。エレ・アコとしての使用時には、接続したアンプ等からチューニング中の音を出さない"ミュート"状態も選択できます。

B チューナーON/OFF表示LED

チューナー機能をONにした状態で、このLEDが点灯(*点滅)します。プリアンプに搭載されている電池が消耗してくるとこのLEDの輝度が低下します。LEDの輝度が低下し始めるとプリアンプの動作に影響が出てきますので早めに電池の交換をおこなってください。

C 音名インジケータ

弦を弾くとその時点での近い音名が点灯表示されます。ピッチ設定を変更する際には、選択した基準ピッチ(438~445)の上の音名が点滅表示されます。

D チューニングインジケータ

チューニングの状態をこのインジケータが点灯し表示します。

E ピッチ(キャリブレーション)切り替えスイッチ

チューナーの基準ピッチを変更したい時、このスイッチで設定します。

△チューナー電源についてのご注意

生ギター/エレ・アコどちらでご使用の場合も、チューナーをONにした状態で、5分以上ギターを弾かない(入力が無い)場合、自動的にチューナーがOFFになるオート・パワーオフ機能が搭載されています。この機能は、チューナー使用時の電源切り忘れによる電池の消耗を防ぐためのもので、無入力状態が続いた後に、自動的にチューナーがOFFになっても故障ではありません。オート・パワーオフ機能は、チューナーのON/OFFにのみ有効で、特に生ギターとしてのご使用時にチューナー機能

のスイッチの切り忘れによる不意な電池消耗を防止するのに効果的です。エレ・アコとしてご使用の場合も、チューナーのオート・パワーオフ機能は有効ですが、プリアンプのサウンド設定機能のON/OFFはエンドピン・ジャックへのギター・ケーブルの抜き差しによるのみ行われますので、ギター・ケーブルの抜き忘れは、電池を消耗する原因となります。以上の点にご注意頂き、電池を不意に消耗しないようご注意ください。

1. AのチューナーON/OFF・モード・スイッチをONにし、チューナーを作動させます。

※チューナーON/OFF・モード・スイッチは、ギター本体のエンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続しない生ギターとしての使用時と、ギター・ケーブルを接続しアンプ等を使って再生するエレ・アコとしての使用時では、機能が異なります。

(生ギターとして使用時)

生ギターとしてチューナー機能のみを使用する場合、エンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続する必要はありません。

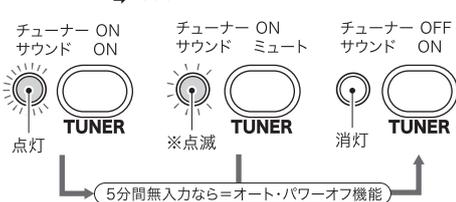
1回押し:チューナーON → 2回押し:チューナーOFF



(エレ・アコとして使用時)

ギター本体のエンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続し、エレ・アコとしてご使用の場合、チューナー機能は以下の通りにモード設定でき、チューニング中の音を出さない"チューナー/ミュート・モード"も選択できます。

1回押し:チューナー/プレー・モード
2回押し:チューナー/ミュート・モード
3回押し:プレー・モード



2.弦を弾きます。その時点での近い音名が半音単位で音名インジケータCに点灯表示されます。#マークの点灯を伴って音名表示する場合もあります。

3.点灯する音名インジケータCと、チューニングインジケータDを見ながらギターの音程を調整します。チューニングしたい音名のインジケータが表示され、チューニングインジケータの中央●(緑色のLED)が点灯したらチューニングが完了です。

【チューニング時のご注意】

1. 搭載されているチューナーは、高感度に設計されているため、最初に入力した音より次に入力された音が大きくずれた場合、自動的に雑音として判断し、表示しないことがあります。例えば弦を強く(あるいは弱く)弾き過ぎたときや、連続して弾いたときなどです。より、正確にチューニングするため、ゆっくり弦を弾くことをお勧めします。

2. 周囲の電気機器などから発生する強いハムノイズを拾い、インジケータが不特定に表示される場合がありますが、故障ではありません。ギターの弦を弾き音が入力されると、正常にチューニングできます。

ピッチ設定(キャリブレーション)の方法

1. AのチューナーON/OFF・モード・スイッチをONにし、チューナーを作動させます。

2.ピッチ切り替えスイッチEを1回押しと、キャリブレーションモードとなり、現在設定されている基準ピッチを示す音名インジケータが点滅します。(初期設定はA4=440Hzです。)

3.音名インジケータが点滅しているとき、再度、ピッチ切り替えスイッチを押すごとに音名インジケータの点滅位置は1ステップ(1Hz)ずつ移動します。希望する基準ピッチに達したらピッチ切り替えスイッチの操作を止めます。

4.操作を止めた時点から約2秒後に自動的にチューニング・モードへ戻ります。

尚、チューナーON/OFF・モード・スイッチAをOFFにしても、設定された基準ピッチはバックアップ(保存)されます。

エレ・アコとしての使用時も、電池残量が無くなる限り、ギター・ケーブルの接続プラグの抜き差しによるON/OFFをおこなっても、設定された基準ピッチはバックアップ(保存)されています。

尚、電池の交換時などバッテリーケースをプリアンプ本体から引き抜いた場合、ピッチは初期設定440Hzに戻ります。必要に応じて再度設定をおこなってください。

